

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk18087
神機構-82
神機構-456

③施設名等

名称：	しらかば子どもの家
施設長氏名：	仲嶋 久義
定員：	40名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2011/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人誠心会
職員数 常勤職員：	25名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	9名
有資格職員の名称（ウ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	26
施設設備の概要（イ）設備等：	ホール、子育て支援室、親子支援室、心理療法室、医務室、静養室、浴室、洗濯室、洗面・トイレ、宿直室、食堂、調理室、事務室、
施設設備の概要（ウ）：	更衣室、倉庫、駐車場、駐輪場

④理念・基本方針

<p><運営理念></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんないっしょ」の養護・保育・教育 <p>社会的養護の重責を担う施設として、要保護児童の最善の利益確保に向けて、法人が一体となって全ての専門職種の職員の力を結集して、効果的・効率的な施設運営を進めます。</p> <p><運営方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護幼児及び児童の人権に配慮した援助と個別の自立支援計画により、それぞれの目標に向けた養育・支援を懇切丁寧にを行います。 ・そのために必要な全ての職員の専門性及び資質の向上に努めます。

⑤施設の特徴的な取組

<p>○人権委員会が中心になり、「子どもとのかかわりハンドブック」を作成している。ハンドブックは、職員の子どもへの関わり方の基本を示し、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。また、生活フロアには、今年度の「生活フロア取り組みテーマ」を掲示している。取り組みテーマは、子どもにもわかりやすいものとし、子どもたちと職員の年間のテーマとしている。</p> <p>○年2回（夏休みと春休み）、子どもたちにヒアリングを行っている。子どもたちの生の声は、「しらかばでの生活で、みんなに教えてほしいこと」としてまとめ、職員にフィードバックし、養育・支援の内容の定期的な振り返りを行っている。</p> <p>○必要な人材育成に向けて、厚い職員配置と計画的な研修体制を整えている。施設長と職員との個別面接を、年2回（5月と10月頃）行い、職員の悩みや意見等を聴いている。10月の面接の際は、職員が半期の振り返りや目標、意向等を「意向申告書」に記入し、提出している。</p> <p>○月1回、大学の教授を施設に招き、外部スーパーバイザー（対人援助職の教育における指導者）として職員に関わることで、職員の専門性及び施設の組織力向上に努めている。</p> <p>○地域の子育て支援事業として、ショートステイの受け入れ事業を行っている。ショートステイを繰り返し利用している子どももいる。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/2/3
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

○「みんないっしょの養護・保育・教育」の運営理念の下、小規模グループケアを実施している。子どもたちは、男子寮と女子寮に分かれて生活し、専門職員による個別的ケアを受け、「愛着の形成」と「大人との信頼関係の構築」を築いている。

○子どもたちには、職員全体で関わることをしている。子ども会議や意見箱、年2回のヒアリングを通し、子どもが相談や意見を述べやすい環境を整えている。また、宿直時に悩みを抱えている子どもの話を聴いたり、実習や就職時に同行したり、誕生日には一対一で外出したりして、個別に話を聴く機会を設けている。

○各寮で月1回子ども会議を行い、具体的な集団生活上の取り決め等について意見交換をしている。毎月、挨拶をしよう、仲良くしよう等、その月の目標も決めている。また、前月の目標を守ることができたかも話し合っている。

○基本的な生活習慣として、挨拶をすること、部屋の片付けをすること等を、日常生活の中での約束事として行っている。小学生は地域行事に参加し、地域の方たちと交流を深めている。中学生は部活、高校生はアルバイト等、施設外の活動が本人の意思で行えるようにして、友達関係や社会との関係性を深めている。

○栄養士や各寮の食生活委員が、子どもの意向や残食量等を確認して話し合い、栄養バランスの良い食事を摂取できるよう配慮している。ご飯は各寮で炊き、温かいものが食べられるようにしている。部活やアルバイトで遅くなる子どもには、温めて食べられるようにしている。

○子どもたちの学習支援は、児童相談所から派遣されてくる週3回の学習講師による学習と、地域の学習ボランティアによる学習があり、主に特別支援級や特別支援学校に通っている子どもをみてもらうことが多い。その他の子どもは、皆で学習し、わからないところは職員に聞いている。進学希望の子どもは、希望により塾に通っている。中学生や高校生は、自室で各自勉強している。

○子どもたちが地域の子ども会に所属し、施設も町内会の法人会員になり、役員は担っていないが、運営委員会には必要に応じて施設長が参加している。地域の行事には日頃から多くの子どもたちが参加し、年1回開催する施設行事「あしたば祭」には地域の方を招待して、地域との交流を広げている。

○今後の生活について、中学高学年や高校1年くらいの頃、本人の希望を聴きながら職員は情報を提供し、十分に話し合いを行っている。進路は、保護者や学校、児童相談所と相談の上、最終的には本人が決めている。受験の問題だけでなく、付随してくる金銭問題や住環境問題等の社会生活に関しても十分に話し合い、本人が理解、納得した上で、進路を決定している。

○自立支援計画策定時に、親子関係の再構築が目標になっている家族には、児童相談所と密に連絡を取り、面会等に積極的に来てもらえるよう働きかけたり、親子での外出の機会を設けたりしている。家族の面会のある子どもたちは嬉しそうだが、子どものアンケートにもあるように、面会のない子どもたちの心への配慮は、特に重点を置く必要があると捉えている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

施設での自己評価は毎年度実施してきておりますが、3年に一度の第三者評価受審は外部の方による専門的で客観的な評価ということで重く認識しております。

開設から丸9年を迎える施設ではありますが、今までを振り返りつつ今後の将来像を考える良い機会となりました。また、これからの計画が策定される時機にこの機会を得られたことは幸いに思います。

今回の受審を踏まえて課題を再確認しながら、職員一体となり地域社会に根ざした施設運営、子どもたちの最善の利益を目指した養育支援にさらに取り組んでまいりたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

運営理念や運営方針は、毎年度の事業計画に明記して、年度当初の職員会議の場で、施設長から職員に話をしている。職員には、事業計画書の他に、行事や係り、子どもの担当表を配布し、1年間の取り組みを示している。事業計画書は子どもの生活フロアに掲示し、面会時に保護者も内容を確認できるようにしているが、保護者には特に配布はしていない。生活フロアには、今年度の「生活フロア取組みテーマ」も掲示している。運営理念の「みんないっしょの養護・保育・教育」は、職員によって受け止め方が異なるので、十分な周知が必要と捉えている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
【コメント】 施設の小規模化や多機能化、地域分散化、里親への移行等、国の養育ビジョンに合わせ、現在、市も推進計画を策定中である。市の推進計画の内容を確認して、「家庭的養護推進計画」を見直す予定である。社会福祉事業全体の動向を把握するよう努め、職員会議の場で児童養護施設の方向性等を職員に説明している。子どもの受け入れ数は、直接経営状況に影響するので、市の児童相談所との関係を深め、相談受け付けや一時保護所の状況等を日頃から確認している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
【コメント】 経営課題については、現在特段の課題はないが、人件費比率等は常に分析する必要があると捉えている。経営の状況を役員間で共有するため、毎月1回、法人内の4施設長が集まり、話し合いを行っている。今後は、建物の改修の問題や、小規模化、地域分散化に向けた取り組みが必要になると捉え、職員にも状況を説明している。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		

施設の小規模化や多機能化、地域分散化、里親への移行等、国の養育ビジョンに合わせ、現在、市も推進計画を策定中である。市の推進計画の内容を確認して、現在策定している「家庭的養護推進計画」を見直す予定である。「家庭的養護推進計画」は、市の推進計画の内容に応じて、具体的な内容にしていきたいと考えている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の事業計画は、「家庭的養護推進計画」を踏まえて作成している。施設の小規模化が進むと、職員が一人に対応する場面が多くなると見込まれることから、今年度の事業計画に、他施設との交流研修や職員の専門性の向上を上げている。以前にも実施した他施設との交流研修は、現在中断しているので、職員が小規模化の現状を確認する良い機会になると考えている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画策定時には、事前に職員の意見を集め、月1回開催する主任・副主任会議で内容を検討して、施設長が計画をまとめている。事業計画の内容は、年度当初の職員会議の場で、施設長から職員に説明している。職員には、事業計画書の他に、行事や係り、子どもの担当表を配布し、1年間の取り組みを示している。また、3年前より、「生活フロア取組みテーマ」を作成し、生活フロアに掲示している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画は生活フロアに掲示し、面会に来た保護者がいつでも内容を確認できるようにしている。ただし、面会で訪れる保護者は限られているので、周知については課題がある。また、内容について質問してくる保護者も少ない。生活フロアに掲示している「生活フロア取組みテーマ」は、子どもにもわかりやすいものとし、子どもたちと職員の年間の取組みテーマとしている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b

<input type="checkbox"/>	組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

朝の連絡会や午後の引継ぎ、職員会議や各フロア会議、合同リーダー会議等の場で、養育・支援の質の向上に向けた話し合いを行っている。2年前から、年2回（夏休みと春休み）、子どもたちにヒアリングを行い、子どもたちの生の声を集めて職員にフィードバックし、養育・支援の振り返りを行っている。また、人権委員会作成の「子どもとのかかわりハンドブック」や県の「養育ブック（改訂版）」にて、職員に子どもとの適切な関わり方の基本を示している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
<input type="checkbox"/>	職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/>	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/>	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

第三者評価の自己評価結果等については、パソコンの共通サーバーにて、職員が内容を確認できるようにしている。共通認識を持つ努力をしているが、まだまだ不十分と感じている。評価結果に基づく具体的な取り組みは、各フロアの主任、副主任を中心に行っている。話し合いの中で、計画を子どもたちにしっかり示すこと、個人専用の持ち物を増やすこと等があげられている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

「係り業務分担表」の中で一部示してはいるが、施設長の役割と責任についてのすべては文書化していない。毎月開催する職員会議では、冒頭で「施設長からの話」の時間を取り、職員に責任者としての姿勢を示している。後援会と合同で発行している広報誌（年2回発行）にも、施設長の挨拶を載せている。広報誌は、関係機関や周辺の地域に配布している。施設長不在時は、主任、副主任が職務を代行することとしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○

	□施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○
--	---	---

【コメント】

県の施設長会議や施設長研修に積極的に参加し、遵守すべき法令等、新しい情報を入手して、職員にフィードバックしている。また、児童相談所の担当者からも情報を聞いている。新しい制度や仕組みについては、職員会議や主任・副主任会議、また日々の取り組みの中で、適宜職員に周知するようにしている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	<p>12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p>□施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	b
		○
		○
		○
		○
		○

【コメント】

職員会議や主任・副主任会議、合同リーダー会議、防災会議等に、施設長が参加し、適宜現状について意見を表明し、養育・支援の質の向上に取り組んでいる。また、議題の内容によって、委員会等にも参加している。人権委員会において、「子どもとのかかわりハンドブック」を作成し、子どもとの適切な関わり方の基本をきちんと整理している。職員研修については、研修委員による年間予定にて、研修の参加機会を確保している。

②	<p>13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p>□施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p>□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p>□施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	b
		○
		○
		○

【コメント】

経営状況を確認しながら、人員配置を厚くするよう取り組んでいるが、求職者が少なく、厳しい現実がある。求人活動は、ハローワークや人材センターを活用し、法人内の各施設で行っている。地元からの職員採用が多いことから、市の社会福祉協議会主催の求人フェアにも参加している。今後は職業指導員等の専門職も採用していきたいと考えている。施設長と職員との個別面接は、年2回(5月と10月頃)行い、職員の悩みや意見等を聞いている。10月の面接の際は、職員が半期の振り返りや今後の目標、意向等を「意向申告書」に記入し、提出している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p>□必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p>□養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p>□計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p>□施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通) □各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	b
		○
		○
		○
		○

【コメント】

必要な人材育成に向けては、厚い職員配置と計画的な研修体制が必要と捉えている。現在、希望する職員数から1名不足してはいるが、それでも他施設に比べると厚い職員配置数となっている。求人活動は、計画通りに採用が進まない難しさがあるが、幅広く機会を活用し、最近では地元の保健福祉大学にも求人依頼を行っている。また、毎年、研修委員が研修計画を作成し、全職員が適宜研修に参加できるよう取り組んでいる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

期待する職員像については、職務理念に示しているが、具体性に欠けることから、今後は表現を工夫したいと感じている。採用、配置、昇給等の基準は周知しているが、人事評価基準については、評価が難しく、現時点では採用していない。給与改善等の職員処遇は改善に取り組んだ結果、向上が図られている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年2回の施設長と職員との面接を通して、職員の意向を確認している。有給休暇の取得状況も把握し、職員会議や主任・副主任会議の場で取得をすすめている。公的な休みも多く設定している。敷地内を全面禁煙にする他、職員の健康管理についても気を付けるようにしている。職員の勤務形態は、断続勤務は用いず、日勤、早番、遅番、宿直の勤務とし、職員が無理なく働きやすい職場作りをすすめている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長と職員との個別面接を年2回（5月と10月頃）行い、職員の悩みや意見等を聴いている。10月の面接の際は、職員が半期の振り返りや目標、意向等を「意向申告書」に記入し、提出している。「意向申告書」には、将来の目標や自己研鑽目標も記入し、職員一人ひとりの育成に向けた取り組みを行っている。個別面接時間は30分を予定しているが、1時間を超える場合も多い。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

毎年、研修委員が研修計画を作成し、全職員が適宜研修に参加できるよう取り組んでいる。外部研修には、職員が年1回は参加できるよう調整しているが、年2～3回参加している職員もいる。外部講師を招いて内部研修を開催する他、主任、副主任を施設内のスーパーバイザーとして位置付け、OJT（職場内の現任訓練）を中心にして職員教育を行っている。将来的な小規模化を想定して、施設間交流研修にも取り組んでいる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員の職責や職務、経験等に応じた研修参加の機会を確保している。外部研修参加後は、復命書を提出する他、職員会議で内容を発表し、職員全体で共有している。研修発表は、プレゼンテーションを学ぶ良い機会となっている。研修の内容によって資料を回覧している。また月1回、大学の教授を施設に招き、外部スーパーバイザーとして職員に関わることで、職員の専門性や施設の組織力向上に努めている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

子どもたちが地域の子ども会に所属し、施設も町内会の法人会員になり、役員は担っていないが、運営委員会には必要に応じて施設長が参加している。地域の行事には日頃から多くの子どもたちが参加し、年1回開催する施設行事「あしたば祭」には地域の方を招待して、地域との交流を広げている。子どもたちが通学する地域の小・中学校との関係も大切にして、家庭訪問に対応する他、授業参観には職員が学校に出向いている。学校の友だちの訪問は、フロア内は時間を制限しているが、外遊びは自由に行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

ボランティアの担当を置き、受け入れマニュアルも整備して、ボランティアの受け入れを柔軟に行っている。生活ボランティアや学習ボランティアの方等が、長年継続して活動している。市の市民活動サポートセンターと連携し、遊びのボラ等の学生ボランティアの紹介を受けている。地域柄、米軍のベース関係のボランティアの活動も多く、子どもたちは、ベースへの招待、ポーリングの招待等、幅広い交流を体験している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

学校との関係では、年度初めの話し合いや、特に課題のある子どもについては何度も話し合いの場を確保する等、連携を密にしている。新任の先生の施設訪問も受けている。市の児童相談所とは、年2回の自立支援計画策定時の定期訪問の他、問題のある子どもへの対応では頻りに遣り取りをしている。市のアフターケアサポートのネットワーク作りには、施設長が参加している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

法人の施設長会議を月1回開催し、地域との連携に関しても情報交換を行っている。市のショートステイ事業の受け入れを行い、施設長が町内会運営委員に、主任が地区ネットワーク会議に参加し、地域のニーズを把握している。児童虐待防止キャンペーンの「オレンジリボンキャンペーンたすきりレー」の運営にも参加し、地域の中の活動を継続している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	
【コメント】		
市からの受託事業ではあるが、地域の子育て支援の一環として、ショートステイの受け入れを行い、昨年度は延べ日数18日の受け入れを行った。また、受け入れ後のフィードバックも行い、支援を継続する中で措置入所につながるケースもあった。地域の子育て支援は、ニーズがあれば対応することとしているが、施設の特性から、積極的に地域にアピールできない課題も抱えている。		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
	【コメント】	
人権委員会作成の「子どもとのかかわりハンドブック」や県の「養育ブック(改訂版)」を基本に、子どもを尊重した養育・支援を実践している。日々の個別の案件を検討する時にも、「子どもとのかかわりハンドブック」をもとにして確認している。また年2回、子どもへのヒアリングを行い、ヒアリングの結果は職員会議で取り上げ、内容を共有している。		
② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
	【コメント】	
プライバシー保護のマニュアルは特に作成していないが、入所の際には、児童相談所から、「子どもの権利ノート」の説明を行っている。子どものプライバシーの保護として、入浴は個室で順番に入ること、他の子どもの部屋には勝手に入らないこと、一人でくつろげるスペースを確保すること、写真の提供や写真撮影のルールを守ること等に配慮している。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○

<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年間行事等をフロアに掲示し、子どもたちがいつでも確認できるようにしている。保護者も面会時等に内容を確認できるが、面会で訪れる保護者は限定されており、十分な情報提供はできていない。子どもたちが生活の決まりを確認したい時には、「みんなのルール」の冊子を活用している。見学に来た子どもや、子どもが通っている学校にも、「みんなのルール」を丁寧に説明している。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時は児童相談所に確認し、子どもや保護者に支援の方針や方向性について説明し、同意を得ている。年2回、自立支援計画の作成にあたっては、子どもの希望や要望を聴いている。中学生以上の子どもには、これからどのような生活を送っていきたいか意向を確認している。保護者の面会時には、必要に応じて養育・支援の内容を説明するようにしている。自立支援計画の内容は、子どもたちには口頭で説明しているが、中学生以上の子どもには、きちんと書面を見せて説明した方がよいと感じている。

③ 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

措置変更や家庭への移行にあたっては、児童相談所や保護者と話し合いを重ね、新しい環境に馴染めるよう配慮している。退所前には、児童相談所の許可を得て、外出や外泊を経て退所につながるようにしている。退所後も、担当者や職員が相談窓口となって関わりを継続している。また、同一建物内にある乳児院から入所する子どもは、乳児院の職員が付き添いながら、徐々に生活に慣れるようにしている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年2回の子どもへのヒアリングの際に、施設での生活の満足度等を確認し、職員会議等で内容を共有し、各寮にて個別に対応している。月1回開催する子ども会議では、職員側からお知らせやお願いをする他、子どもたちからは、寮に1台あるパソコンをどのように使ったらよいか、ゲームをどの時間に使ったらよいか等の意見が上がり、即答できるものはその場で応え、検討が必要な事柄は職員会議で内容を検討して、結果を子どもたちに伝えている。施設内に意見箱も設置している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決の仕組みは、各階に掲示している。意見箱に寄せられた子どもの意見は、人権委員が確認し、内容によっては施設長が子どもと個別に面接することもある。また、職員会議で内容を検討している。子どもたちの意見や希望を聴き、養育・支援の質の向上に取り組んでいるが、取り組みはまだ十分とは言えないと感じている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちには、職員全体で関わることとしている。子ども会議や意見箱、年2回のヒアリングを通し、子どもが相談や意見を述べやすい環境を整えている。また、宿直時に悩みを抱えている子どもの話を聴いたり、実習や就職時に同行したり、誕生日には一対一で外出したりして、個別に話を聴く機会を設けている。子どもの希望により、心理士や施設長との面接を早めに設定している。児童相談所の職員との面接の機会も設けている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子ども会議や意見箱、ヒアリング等の他に、子どもたちからは入浴時にいろいろな話が出ることが多い。小さい子どもには入浴を介助する中で、小学校高学年から中学生は見守りをする中で、子どもたちの声を聴いている。子どもたちの相談や意見の内容は、すぐに解決できるものは寮内で対応している。内容によって施設長に相談する体制は整えているが、対応マニュアル等は特に作成していない。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

事故等が発生した場合には、主任、施設長に報告し、報告書を作成しているが、リスクマネジメントに関するマニュアルは特に用意していない。ヒヤリハット事例や事故の報告は、職員会議で内容を共有し、改善や再発防止に取り組んでいる。緊急な対応が必要な場合には、寮会議で具体的な改善策を検討している。子どもによって、集団生活内での対応が難しい場合には、児童相談所と協議して、一時保護所を活用することもある。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

看護師を中心に、感染症の予防に取り組んでいる。子どもたちが外から戻った時は、手洗いやうがいを励行し、タオル類は個別またはペーパータオルを使用している。同一建物内に乳児院があるため、状況によって子どもの隔離、交流の禁止を決めている。インフルエンザの予防接種については、入所時に保護者から同意書をもっているが、保護者に連絡が取れないケースは児童相談所から保護者に連絡してもらっている。感染症に関する勉強会は特に行っていないが、看護師が保健所等の研修会に参加し、職員会議で内容を報告して周知している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

災害時における子どもの安全確保のため、同一建物内の乳児院と合同で、毎月、防災会議を開催し、避難訓練を行っている。地震や津波対策、火災等の夜間想定訓練を実施し、年数回は抜き打ちで行う他、年1回は消防署の協力による総合訓練を実施している。施設周辺には住宅がないため、地域住民の参加はないが、施設の裏の高台に特別養護老人ホームがあるので、そちらに避難できるよう連携している。非常用の食品等も備蓄している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【コメント】		
養育・支援についての標準的な実施方法については、「子どもとのかかわりハンドブック」を基本として、各寮の業務内容を整理している。「子どもとのかかわりハンドブック」作成には、すべての職員が関わり、内容の確認作業を行った。養育・支援のあり方は、児童相談所職員による研修会での振り返りや、ボランティアの気付き、実習生の声等も参考にして、質の向上に努めている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
「子どもとのかかわりハンドブック」は、人権委員会や職員会議、寮会議等で、繰り返し内容を検討して作成した。現在、内容を変更する大きな問題は上がっていないが、作成に際し県の養育ブックも参考にしていることから、内容を見直すことは必要と感じている。子ども一人ひとりの自立支援計画は、年2回、児童相談所と一緒に見直し、策定している。「みんなのルール」は、子どもたちの意見を取り入れて、その都度、内容を修正している。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>
【コメント】		

自立支援計画は、年2回、施設長や主任、担当職員、心理士と、児童相談所の担当者を基本メンバーとして策定している。策定に際しては、前回の計画を振り返り、子どもの意向を確認した長期・短期目標の策定、家族関係、生活状況の確認等を行っている。不登校の子どもは、学校関係者に聴き取りを行っている。また年1回、行動評価としてCBCL（子どもの行動チェックリスト：心理社会的な適応/不適応状態を包括的に評価するシステム）での確認を行い、広い視野で成長を評価し、自立支援計画の策定につなげている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの自立支援計画は、年2回定期的に評価、見直しを行っている。職員会議等で、内容を全職員に周知している。自立支援計画書はパソコン内の共通サーバーに保存し、パスワードで管理している。計画を緊急に変更する場合は、児童相談所との協議を経て、施設長を交えて決定し、引継ぎ時等に周知を図っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

日々の子どもたちの記録は、パスワードで管理した共通サーバーの個別の記録内に入力して管理している。個人情報に関する記録や業務上の重要な情報に関するものはパソコン内に、当日の共通日誌や引継ぎ・回覧は紙ベースで記録している。子どもたちの健康管理に関する記録は看護師が取りまとめて整理し、必要に応じて個別日誌に入力している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

児童相談所からの書類、医療、保護者、学校等の紙ベースの書類は、子どもの個別ファイルにまとめ、永年保存している。日頃の行動観察日誌は、パスワードで管理したパソコンの共通サーバーに入力、保存し、月別に決裁を受けてファイルに保管している。個人情報の保護や取り扱いについては、入職時、誓約書や就業規則にて説明している。また、法律の改正等、必要に応じて会議等で話をしている。個人情報の保存に関する規程は、見直しの必要性を感じている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	

【コメント】

子どもの権利擁護は、理念にも明示している。また、「子どもとのかかわりハンドブック」を人権委員会が作成し、全職員に配布している。ハンドブックに、人権を守る関わり方を細かく規定して周知している。課題については、毎月開催する人権委員会の場で協議、検討している。子どもたちの名前は、職員だけでなく、子ども同士でも呼び捨てにしないこと等を守っている。子どもたちには、年2回ヒアリングを実施し、人権が守られているか等、聴き取りを行っている。ヒアリングの結果は分析し、人権委員会や職員会議等で職員に周知している。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	

【コメント】

毎年、児童相談所のケースワーカーが担当の子どもに「子どもの権利ノート」の説明を行っている。それを踏まえて、年2回、権利保障の視点から、子どもにヒアリングを行い、意見を聴いている。子どもと一緒にフロア会議の中でも、権利は守られているか等、話し合いを行っている。寮内には知的障害等で特別支援級や特別支援学校に通っている子どもがいる。弱い立場にいる子どもに対して、思いやりの気持ちを大切にしよう、日々の生活の中で職員は話しているが、見えないところで、意地悪な言葉を言ったりすることがあるので注意している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○

<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	

【コメント】

発達状況に応じて、子どもたちに事実を伝えていくことは大切なので、児童相談所のケースワーカーと話し合い、事実を伝えてもらうことがある。家族の状況を把握している児童相談所の役割は大きく、その後の子どもの言動等を確認して、施設がどうフォローしていくか検討している。日々の楽しい生活の記録として、子どもたちは担当の職員や心理士と一緒にアルバム作りをしている。同一建物内の乳児院から入所してくる子どもが多く、母親との関わりが薄いことから、思い出は施設での生活が中心になっている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	

【コメント】

「子どもとのかかわりハンドブック」の中に、虐待の防止について明示し、細かなチェック項目を挙げて防止に努めている。日々の生活の中で、子どもが暴れたり、暴力を振るったりするような時の対応は、やり返したりしないこと、職員は一人で対応しないこと等を明示し、定期的に職員会議等で確認して取り組んでいる。子どもたちにも、不適切な関わりがあつた時には、意見箱や口頭で伝えてくるように話している。実際にはないが、暴力行為等が発生した時は事実を確認して、施設長から法人や児童相談所に連絡する手順を踏むことを決めている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

① A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

各寮で月1回子ども会議を行い、具体的な集団生活上の取り決め等について意見交換をしている。毎月、挨拶をしよう、仲良くしよう等、その月の目標も決めている。また、前月の目標を守ることができたかも話し合っている。今月の目標を決めたり、ゲームの時間帯やパソコンの使用の約束等が話題に上がっている。子どもたちは年齢に応じ、500円から5000円までのお小遣いをもらって、マンガやお菓子を買っている。また、高学年になると担当と話し合い、卒園後のために貯金をしている子どももいる。小遣い帳を各自がつけている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

① A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
---	---

<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

同一建物内の乳児院からの入所が多く、普段から交流はあるが、入所が決まると体験生活ができるようにしている。また、子どもの情報や記録がそのまま移行してくるので、これまでの生活の継続性を保つことができている。職員も顔見知りなので、安定した生活を送ることができている。児童相談所を通しての受け入れは、職員が児童相談所に子どもに会いに行き、状況を確認してくることが多い。受け入れ後は精神的不安が強く、暴れたりする子どもがいることから、ウェルカムメニューを出したり、登校時には職員が付き添ったり、学校から帰ってきたら一緒に遊んだり、宿題をしたりして、信頼関係を築くようにしている。

② A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

担当職員が中心になり、中学生くらいになると、将来を見据えてどう生活していくか、今後の人生について話し合いを行い、卒園後の進路を考えられるよう支援している。食事や掃除などの生活面、お金の管理の面、仕事の面等、具体的に話し合い、自分で進路を決めていくことができるよう支援している。就職をして寮生活をしている子どもや、大学に進学している子ども等、卒園生には退所時の担当者が卒園後も電話で生活の様子を確認している。施設のお祭り「あしたば祭」には、多くの卒園者が楽しみにして訪れている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
① A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	
<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。		
<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○	

【コメント】

子どもが感情的になり、騒いだり、暴れたりすることは普通のことなので、その時の子どもの気持ちに寄り添い、どうしてそのような気持ちになったのかを受け止めていく姿勢を大切にしている。心理的不安が強い子どもへの対応は、新しい職員にはOJTの観点で主任が助言や相談を行っている。登校拒否がある子ども等には、何がいやか子どもから話せるように、無理をせずに関わっている。寮会議、ケース検討会議、また児童相談所のケースワーカーを囲んでの検討会等で、対応の仕方について話し合いを行っている。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

食事はその子どもにあった量、食べ方等で、おいしく楽しく食べられるよう工夫している。睡眠は、年齢によって消灯時間を決めている。幼児5人を職員が寝かしつけ、夜間は巡回に行き状況を観察している。トイレトレーニングを行っている子どもがいるが、叱ることはせずに安心してできるように関わっている。特に幼児には抱っこ、おんぶをできるだけして、愛情のある関わりを作っている。小学生、中学生、高校生にも、できるだけ話し合う時間を持ち、誕生日やクリスマスの買い物等は、担当と一緒に外出して、好きな洋服等を買ったりしている。職員が交代勤務なので、子どもが体調不良等の場合は、職員が連携して関わるようにしている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

小学生は学校から帰ると、宿題に取り組み、明日の時間割の準備をしている。職員は言葉掛けをしながら、一人ひとりを見守り、子どもたちが自分でできるように支援している。その後お風呂に入るが、きちんと洗えているか等を確認をしながら、よくできた時は褒めながら関わっている。朝は、寮の中に職員が2人と少なく、子どもを起こし、洋服に着替え、洗面、朝食、登校と非常に忙しいスケジュールのため、どうしても過干渉になりがちである。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ブロックやボードゲーム、粘土、トランプ、卓上ピアノ、ボールの家、自転車等のおもちゃを用意し、いろいろな遊びを選ぶことができるようにしている。天気の良い日は、戸外遊びや散歩に行くことが多い。小・中学生はゲームやパソコンを使っての遊び等をしている。中学生は部活に入っているので、運動や音楽等を楽しんでいる、また、高校生はアルバイトをしているので、自分のスマホを自己管理している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていきようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	○

【コメント】

基本的な生活習慣として、挨拶をすること、部屋の片付けをすること等を、日常生活の中での約束事として行っている。小学生は地域行事に参加し、地域の方たちと交流を深めている。中学生は部活、高校生はアルバイト等、施設外の活動が本人の意思で行えるようにして、友達関係や社会との関係性を深めている。生活上のことは、子ども会議の中で職員と話し合う場を設け、なぜ守らなければいけないのか、一緒に考えている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

栄養士や各寮の食生活委員が、子どもの意向や残食量等を確認して話し合い、栄養バランスの良い食事を摂取できるよう配慮している。ご飯は各寮で炊き、温かいものが食べられるようにしている。部活やアルバイトで遅くなる子どもには、温めて食べられるようにしている。朝食は6時45分に摂るので忙しいが、夕食は18時に、皆でゆっくりと楽しく食事をしている。卒園が近い子どもには、調理体験の時間を設けている。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

季節の変わり目に、担当職員と外出し、予算の範囲内で本人の好みの衣類を購入している。衣類の整理は、幼児は職員が、小学生は職員と一緒に、中学生以上は自分でやっている。脱いだものをそのままにしたりと、整理ができていない子どももいる。洗濯は毎日行い、高校生は自分で洗濯している。入学式や卒業式等の行事のための衣服は、施設で用意しており、子どもたちはそれを着用している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

中・高校生は個室を使用し、各自ベッドや勉強机、整理タンス等を自分の好みに合わせて配置している。居室には好きなポスターや絵を貼ったり、自分の部屋で心地よく過ごせるよう各自が工夫している。個人の持ち物は、自分で管理している。幼児の部屋は、十分な遊びができるような広さを確保し、清潔に保ち、夜間は畳を敷いて、布団で安心して寝ることができるようにしている。中学生以上は各自が部屋の掃除を行っている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

市内の内科の嘱託医が年2回、定期検診を行っている。アレルギーのある子ども、喘鳴のある子ども、吸引を行う子ども等があり、嘱託医に日ごろの状態を確認してもらい、相談している。子どもの健康状態が悪い時には、看護師と相談して受診している。服薬管理は看護師が行い、毎朝セットしたものを各寮に置き、寮の担当がチェックをして服用している。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

性教育委員会により性教育の年間計画を立て、発達に応じた性教育を行っている。「子どもとのかかわりハンドブック」の中にも性教育を明示し、職員に周知している。幼児はおままごとの遊びの中で教えて、小学生はプライベートゾーン等の指導を行い、5年生になると学校でキャンプがあるので、その前に初潮を迎えるための指導を行っている。女子は女性職員に相談できる体制を整えている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

「子どもとのかかわりハンドブック」の中に、危機的状況や暴力への対応を明示し、職員研修において適切に関わることができるようにしている。小学生の子どもで、時々職員に対し暴力をふるう子どもがいるが、他の職員が気持ちを落ち着かせ、何がきっかけなのかを子どもと一緒に考え、気持ちのコントロールができるようしている。子どもを怒ったりするのではなく、暴力はいけないことであることを、その子どもの気持ちに寄り添いながら理解できるようにしている。暴力の場面は、特に幼児や低学年の子どもには見せないよう配慮している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちだけで部屋にこもらないよう、ルール化し、職員が連携して子どもたちの様子を意識して見るようになっている。特別学級や特別支援学校に通っている子どもたちに対し、いじめと思われる言動があったとの情報が入ることがある。個別に聞き取りをして確認したり、子ども会議でいけないこととして話しあったりして、取り組んでいる。また、虐待により心的外傷のある子どもが以前いたが、心理士や児童相談所の協力を得て、子どもとの関わりを深めていったことがある。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

常勤の臨床心理士が、遊びを通して下校後の子どもと関わりながら、子どもたちの行動を観察し、定期的に子どもとの面接を行っている。また子どもと一緒に、アルバム作りをしながら、生い立ちの振り返りを行っている。子どもたちは自ら面接を申し込んで、話を聴いてもらったりしている。心理室で落ちついて話を聴いてもらうことができるので、子どもたちは満足している様子である。外部からスーパーバイザーも入っている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

子どもたちの学習支援は、児童相談所から派遣されてくる週3回の学習講師による学習と、地域の学習ボランティアによる学習があり、主に特別支援級や特別支援学校に通っている子どもをみてもらうことが多い。その他の子どもは、皆で学習し、わからないところは職員に聞いている。進学希望の子どもは、希望により塾に通っている。中学生や高校生は、自室で各自勉強している。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

今後の生活について、中学高学年や高校1年くらいの頃、本人の希望を聴きながら職員は情報を提供し、十分に話し合いを行っている。進路は、保護者や学校、児童相談所と相談の上、最終的には本人が決めている。受験の問題だけでなく、付随してくる金銭問題や住環境問題等の社会生活に関しても十分に話し合い、本人が理解、納得した上で、進路を決定している。社宅があるところに就職したり、大学に入り福祉を目指して勉強をしている子どもがいる。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

実習の体験は、高等部の学校プログラムの中で行っている。普通高校では実習体験はないが、高校1年になると雑誌等で自分で市内のアルバイト先を見つけて面接に行き、アルバイトを行っている。アルバイトを行うことにより、社会での体験が広がっている。またアルバイトをすることで、スマホを持つことができるようにしている。子どもたちはアルバイトにより、交友関係が広がり、社会的責任等を身に付けている。また、資格取得の希望があれば、後援会の支援を受け、実現できるようにしている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるように図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後ひ子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

子どもに面会に来たり、一緒に外出する保護者はとても限られているため、家族との関係作りを進めていくことは少ない。数少ない中で、関わりの持てる保護者には、子どもの園での生活状況や学校での様子、通知表等、折りに触れて電話や面会時に伝えている。最近では1人、家庭復帰ができた子どもがいた。下の子どもがまだ施設に在籍しているので、連絡のあった際に、家庭での生活の状況を確認している。最近では部活に忙しいが、元気に家庭で生活していることを聴き、保護者も穏やかに生活を送っている様子を確認することができた。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

自立支援計画策定時に、親子関係の再構築が目標になっている家族には、児童相談所と密に連絡を取り、面会等に積極的に来てもらえるよう働きかけたり、親子での外出の機会を設けたりしている。家族の面会のある子どもたちは嬉しそうだが、子どものアンケートにもあるように、面会のない子どもたちの心への配慮は、特に重点を置く必要があると捉えている。